

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000260
法人名	有限会社 睦和福祉会
事業所名	ライフサポート あさひ
所在地	〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛2-5 (電話) 0952-34-9777

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	〒840-0021 佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年7月3日

【情報提供票より】(平成21年 3月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9人, 非常勤 4人, 常勤換算	11.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建て
------	----------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,800 円	その他の経費(月額)	41,400円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 950 円			

(4) 利用者の概要(3月 30日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	2名		
年齢	平均 83.8歳	最低	60歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田内科医院、岸川クリニック、本庄診療所
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園地帯にあり、周りには青々とした田畑が広がっている。事業所は2ユニットを有しており、両ユニット間の玄関ホールには、機能訓練用の器具を設置し、理学療法士の指導のもとに機能訓練にも取り組んでいる。職員は明るい笑顔で利用者一人ひとりのペースに合わせた支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」「評価の意義の理解と活用」「運営推進会議を活かした取り組み」「市町村との連携」等への取り組みが課題にあげられていた。管理者は、外部評価の結果を職員に報告はしているが、具体的な改善への取り組みには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義は理解しており、自己評価は全員で行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回開催されているが、外部からは、市の職員以外の出席はほとんど得られていない。内容的にも、サービスの質の向上を図るための話し合いには至っておらず、活動報告と花見や避難訓練等の行事への参加に留まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会の折に声をかけ、意見や要望、不満等を聴くように努めている。要望等があった場合には、速やかに対応しサービス向上に活かしている。また、玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情等の受付先を明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の時には、近隣の人達と挨拶を交わしているが、地域の一員として行事や活動に参加をしたり、事業所を拠点とした地域住民との交流を持つまでには至っていない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に基づき明るく楽しい環境の中で安心と尊厳のある生活を提供いたします」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	東西のユニット間にある訪問者用の玄関とホールには、理念を明示しているが、理念についての話し合いや、新しい職員への理念の説明がされておらず、理念の共有が十分とは言えない。	○	職員間で理念についての話し合いの機会を持ったり、新しい職員に対する理念の具体化について理解を深める取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時には、近隣の人達と挨拶を交わしているが、地域の一員として行事や活動に参加をしたり、事業所を拠点とした地域住民との交流を持つまでには至っていない。	○	地域に溶け込むための工夫を検討し、地域とのつながりが一層強化されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、全員で自己評価を実施し、外部評価結果についても職員に報告はされているが、具体的な改善への取組みには至っていない。	○	全職員でサービス評価の意義や目的を再確認し、評価結果を十分に活かして、具体的な課題解決に取組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は概ね2ヶ月に1回開催されているが、外部からは、市の職員以外の出席はほとんど得られておらず、運営推進会議の成果をサービスの質の向上に十分に活かしていくまでは至っていない。	○	運営推進会議の意義や目的を再確認し、利用者、家族等、地域住民、行政の職員等幅広い立場の参加を得、評価で明らかになった改善課題への取り組みや改善経過をモニターしてもらうなど、サービスの質の向上に繋げるような双方向的な会議となることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町担当者との情報交換や課題解決のための協働にまでは至っていない。	○	市や町の担当者に事業所の実情や課題等を積極的に伝え、サービス向上のための協働関係が構築されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、面会時や毎月発行する事業所便りを通して報告している。また、金銭管理についても、利用者一人ひとりの出納簿を準備し、毎月、明細を添えて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の折に声をかけ、意見や不満、要望、苦情等を聴くように努めている。要望等があった場合には、速やかに対応し、サービスの質の向上に努めている。また、玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情等の受付先を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の悩み事の相談に乗ったり、働きやすい環境作りに配慮する等、離職防止を図っている。職員の交代時には、事前に利用者に話をしたり、引継ぎの期間を設ける等、利用者へのダメージを少なくするように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では、毎月研修会を実施しているが、外部研修を受講する機会の確保には至っていない。新しい職員に対しては、業務を通して管理者等が指導を行っている。	○	各職員が自らの立場、経験、地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度に応じて、段階的に力をつけていけるような、内外の研修機会の充実を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図る事が出来るような、地域の同業者との交流の機会はない。	○	管理者や職員が地域の同業者と勉強会や相互評価などを通じて連携を図れるような具体的な取り組みや、事業者団体等への加入への検討も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には家族と一緒に見学に来てもらうことから始め、体験入居をしてもらう等、徐々に馴染んでもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から料理や子育て、生活の知恵等を教えてもらったり、裁縫の得意な利用者からは、繕い物をしてもらう等支えあう関係が作られている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、本人の希望や意向を把握し、可能な範囲で希望等が実現できるように支援している。また、意思の疎通が困難な場合には、家族から話を聞き、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と十分に話し合ったり、かかりつけ医や職員等からも意見や情報を収集し、介護計画を作成している。計画にはそれぞれの意見や希望等が反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また、状態の変化時にも随時見直しを行い、現状に即した計画で対応している。見直し時には家族にも声をかけ、意向や希望等を確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し健康管理を図っている。また、本人や家族の状況に応じて、受診の付き添いを有料で行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される医療機関の受診を支援している。なお、主治医の変更も、本人や家族の希望によって行われている。事業所と医療機関との連携もよく、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に対する対応指針を定めており、管理者がサービスの開始時に家族に説明を行い、同意を得ている。重度化の場合や終末期には、段階に応じて医師から家族に説明をしてもらい、家族の意思に基いて支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライドとプライバシーに配慮した声かけやさり気ない支援を行っている。また、個人情報の保護に関しても理解しており、資料等の取扱いには注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大体の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援に取り組んでいる。起床や就寝時間、朝食時間、入浴の日時等本人のペースや希望に添っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望を反映しながら作成している。食事の時には、職員も一緒に同じものを食べ、食事の進み具合や食べこぼし等を見守っている。また、利用者も職員と一緒に食材の下準備や食後の下膳等をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴としているが、毎日の入浴も可能であり、時間も本人の希望に応じて支援している。なお、入浴を拒否される場合には、無理強いせず、タイミングをみながら対応している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴や力を活かし、書道やカラオケ、ビデオ鑑賞、裁縫、観葉植物の栽培、おしぼり作り、食材の下準備等を楽しみや役割として支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩をするように心がけている。気候の良い時期には、中庭で食事やお茶を楽しむこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	東西のユニット間にある訪問者用の玄関と東棟の玄関は施錠されていない。しかし、西棟の玄関は日中も施錠されている。	○	鍵をかける事の弊害を再確認し、日中、鍵をかけないで支援していくための更なる工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、消防署の協力を得ながら、昼夜を想定した通報訓練や避難訓練を実施している。	○	特に、夜間等は職員だけの誘導に限界があることを踏まえ、近隣の人達の協力を得た訓練にも取組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、その都度観察し記録をしている。なお、利用者の体調や機能に応じ、食べ物の形状にも配慮をしている。水分補給には気を付けており、夜間もペットボトルに入れて居室に置き、摂取を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内には不快な音や光はないが、居間兼食堂の壁には季節はずれの写真が掲示されている。	○	安らぎのある居心地の良い環境作りには、季節感の表出は欠かせないものである。季節の草花や四季折々の飾り付け等を意識的に採り入れる工夫も期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は家族に対して、本人に馴染みの品物の持込みを促している。居室には、箆笥や鏡、椅子、時計、裁縫箱、家族の写真、観葉植物等が見受けられる。		